

宛先

ニューズレター

低平地研究会 (LORA), 国際低平地研究協会 (IALT)

No. 86

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/lora/index.html>

<http://www.ilt.saga-u.ac.jp/ialt/index.html>

平成28(2016)年10月28日

学生による建築デザイン発表

「門前に集まって住む」

かつての門前は、「無縁」の民を含み多様な人々や文化が交錯する盛り場であったといえましょう。しかし時代とともに役割が変化し、特に地方都市の門前は空洞化するものも少なくありません。今回、低平地研究会の共催事業として、佐賀市松原神社の門前、新馬場通り一帯を対象として佐賀大学都市工学科 3 年生(30名)による中低層集合住宅を含む地区の建築デザイン発表(発表会: 8/10、展示会 8/11、会場: ゆつつらーと館)を開催しました。

各 5 名の 6 グループが、「神社に向かう静と動」、「路地暮らしのススメ」、「門前の URBAN VALLEY」、「HOBBY COMUNITYS」、「ふれあい門前通り」、「アーバン ガーデنز」、と題し、それぞれが場所性を踏まえ多様なライフスタイルなどを編纂した「門前に集まって住む」かたち、「物語」のある空間を模型や図面等により説明されました。発表会にはご後援をいただいた「ユマニテさが」、建築に携わるプロパーの方々にご参加いただき、事業スキーム等の具体的な課題、地区レベルでの新たな発想や考え方について有意義な議論があり、このような協働の積み重ねが今後の低平地の都市づくりに重要と再認識できました。

(都市空間専門部会、後藤隆太郎・田口陽子)



IALT Council meeting の開催報告

9月14日(水)にインドのマングロールにおいて、国際低平地研究協会(IALT)のcouncil meetingを開催しました。会議にはMadav会長を始めとして7名が参加しました。会議ではまず2015年度の決算報告や2016年度の予算について説明され、承認されました。会員数の報告では、年々増加しており現在では171名であることが報告されました。また、IALTが発行している国際論文集であるLowland Technology International(LTI)の活動報告では、論文評価の参考のインパクトファクターが前年の0.08から0.21に増加していることが説明されました。2015年からLTIの発行を従来の年2回から4回に増やしたこと、論文の投稿数が増加していることがその要因と考えられ、国際的にもIALTの活動が評価され始めているという喜ばしい報告でした。その他には、低平地に関する国際シンポジウム(ISLT2016)の準備報告、今後の活動計画について報告がありました。

本件の詳細については、来年発行される低平地研究へ掲載される予定です。

第3回 ASIAN 協働講義の開催報告

9月11日(日)～18日(日)にわたり、第3回 ASIAN 協働講義が開催されました。今回は、初の海外開催としてインドのマングロールで開催され、9つの講義と2回のStudy Tourが行われました。参加した学生はインド人学生37名、日本人学生9名(うち、日本人5名、外国人4名)でした。プログラムを終えた学生たちからは、今後の国際活動についての意欲的な感想を聞くことができ、盛況の内に終えることができました。

最後になりましたが本プログラム推進に当たり、多くの関係者に多大なご協力を賜りましたことに感謝を申し上げます。

低平地研究に関する豆知識 -その23-

「水害時の避難方法」

低平地の浸水リスクが高いことは知られているが、(低平地で盛んな)自転車利用が洪水時に可能な水深は20~30cm程度とされている。また、洪水時の自転車の走行速度は1.3m/s(時速5km)程度で通常時の歩行速度と同程度で遅く、安全性や確実性を踏まえると避難ツールとして適切ではない。一方、自動車では、30cmの水深でも小型車は流されてしまう。また、ドアを開けての車からの脱出の可否に関しては、70~80cmの水深が限界とされている。なお、前方よりも後部座席からの方が脱出し易い。更に深くなるとガラスを割る等して脱出することになるが、緊急脱出用のハンマー等がなければ容易ではない。最悪の状況下では車の内部がある程度浸水するのを待てば、水圧が小さくなりドアがむしろ容易に開く。これより洪水時の自転車と自動車の走行限界はともに30cm程度と考えられ、その程度の浸水は今後容易に起こり得るので早めの避難が肝要である。(佐賀大学准教授:押川英夫)

低平地に関する国際シンポジウム

ISLT2016の開催報告

9月15日(木)~17日(土)の日程で、第10回目となる低平地に関する国際シンポジウムISLT2016が開催されました。今回はインドの西海岸にあるマンガロールでの開催でした。論文は約100編ほどが集まり、会場は多くの参加者で賑わいました。基調講演のMiura Lectureでは佐賀大学大学院工学系研究科の柴錦春教授にご講演頂き、聴講者から多くの質問が寄せられました。15日と16日には地盤、水、都市の各専門分野に関するテクニカルセッションが行われ、論文が発表されました。3日目の17日にはテクニカルツアーが実施され、地元企業の視察や伝統的な建築様式の見学として寺院を訪れました。インドと日本は遠く離れており当然ながら文化の違いが大きいことを多く感じましたが、どこか親近感を感じるような場面がありました。将来的には研究協力などが進むことが期待されます。

低平地研究 No. 25の発行

低平地研究 No.25が5月に発行されました。本号には「低平地佐賀における集住空間とその環境を読む」というテーマの特集をはじめ、低平地、特に佐賀平野を対象とした研究・報告も掲載されています。本誌には会員の方が執筆された論文や解説、資料なども掲載されますので、ご寄稿をお待ちしております。



会
員
向

特別会員

一般社団法人 佐賀県建設業協会

一般社団法人佐賀県建設業協会では、各種公益事業を行なっておりますが、その中で様々な防災・災害対応活動、社会貢献活動、ボランティア活動を実施しております。



○国・県・市町と結ぶ自然災害に関する協定○県と結ぶ防疫に関する協定○佐賀県総合防災訓練への参加協力○九州地方整備局と合同の現場見学会「おやじの日」○夏休み親子防災教室○土木フェアへの協力○夏休み親子インフラバックヤード見学会(嘉瀬川ダム・県医療センター好生館・九州佐賀国際空港)○県内の幼稚園・保育園内にある砂場の抗菌化活動○各市町の道路・海水浴場等の草刈り・清掃活動○市町、警察署等と連携したカーブミラーの清掃・整備活動○会員各社が自主的に行なうボランティア活動

L T I ジャーナル Vol. 18、No. 2の発行

英文機関紙「Lowland Technology International」Vol.18、No.2が発行され、9編の論文が掲載されています。

タイトル	著者
Retrofitting design of Kathmandu University library building after Gorkha Earthquake 2015	P.M. Pradhan, R. Adhikari, A. Dahal, A. Shrestha, D.L. Subedi, S. Thapa and P. Kharel
Earthquake: Impact on Nepalese economy and women	k. Shakya
Women of Nepal and post-earthquake humanitarian responses: An observation of three months	K. Bajracharya
Spatial distribution of coseismic mass movements by 2015 Gorkha Earthquake in six districts of central Nepal	M.R. Dhital, M.L. Rijal and S.R. Bajracharya
The 2015 Nepal Gorkha Earthquake: An overview of the damage, lessons learned and challenge	H. Hazarika, N.P. Bhandary, Y. Kajita, K. Kasama, K. Tsukahara and R. Pokhrel
Study on thermal environment and thermal comfort in autumn season of temporary shelters in Nepal after Massive Earthquake 2015	R. Thapa and H.B. Rijal
Landslide dams and their hazard after the 25 April 2015 Gorkha Earthquake in Central Nepal	M.R. Dhital, M.L. Rijal and S.R. Bajracharya
Damages and causative factors of 2015 strong Nepal Earthquake and directional movements of infrastructures in the Kathmandu Basin and along the Araniko Highway	S. Manandhar, T. Hino, S. Soralump and M. Francis
Lifeline Infrastructure & the UN Disaster Resilience Scorecard	M. Francis and M.R.Z. Whitworth

編集後記

本号より、ニューズレターの編集委員長を務めさせていただきます。今後ともよろしくお願いたします(森田)。
編集: 森田(佐大:ss5263@cc.saga-u.ac.jp)、江頭

-お問い合わせ-

〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1
佐賀大学低平地沿岸海域研究センター